

今、もう一度考える 原子力災害と「避難」

いま、わたしが伝承したいこと

山田千絵
(くらしの中からかえるプロジェクト・医療被ばく問題研究グループ)

もくじ

- I 東日本大震災の10年前
(市民講座「原子力防災—生命は守れるか」より)
- II 2011年(東日本大震災)からこれまで
一見えてきた問題点一
- III 今
(もう一度考える 原子力災害と「避難」)

I 東日本大震災の 10 年前…

2001 年 これからの原子力問題—防災・地震・廃棄物
(高木学校 B コース第 4 回連続講座)

第 1 回

『原子力防災—生命は守れるか』 原子力問題研究グループ

— part2 原子力災害と『避難』—

1. 避難のための基礎知識

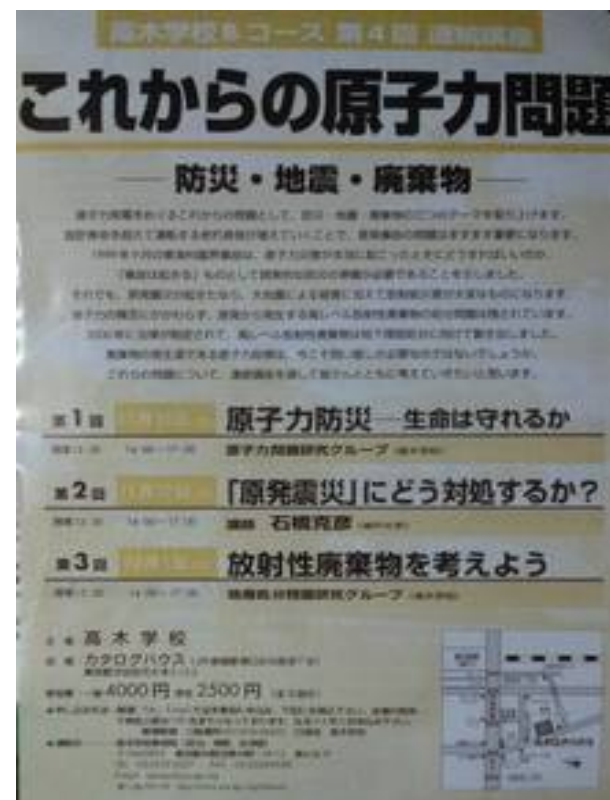
- * チェルノブイリ『内部告発』
/ 事故の公表先送り / 住民の被曝 / 避難方法…
- * 高木仁三郎・水戸巖 (1987) SSTI に基づく計算例

2. 避難行動シミュレーション

—ある原子力施設立地地域のケース

3. 生命は守れるか？

【2001 年の結論】* 自治体による 避難計画の策定と実行…非常に困難



1. 避難のための基礎知識

＞情報取得の必要性

＞放射性物質の拡散・被害の予測

(1) 事故の発生場所、事故の規模と種類

A1 発生場所

A2 事故の規模と種類

(2) 気象条件 (事故のもたらす影響を左右)

B1 被害の拡大と天候の関係

B2 放射性物質の到達する距離

B3 住民の被曝線量

(3) EPZ (その問題点※当時日本 10 km / 米国 16 km)

・根拠を疑問視する声

・事故による放射能の放出量が過小評価？

(想定された以上の事故が起こった場合、設定に意味はなくなる)

⇒ 【例】 地域住民の避難行動シミュレーション

2. 避難行動シミュレーション

—ある原子力施設立地地域のケース—

JCO 事故のあった東海村*の場合

- (1) シミュレーションの枠組み

自家用車での避難／バスによる避難／ゾーン単位の設定
村外へと通じる道路の状況／各道路の容量想定

→ 車両の幹線道路への「配分」／交通量の試算

- (2) 交通量の概算

A1 交通量概算の条件整理

B1 避難経路①制約が無い場合

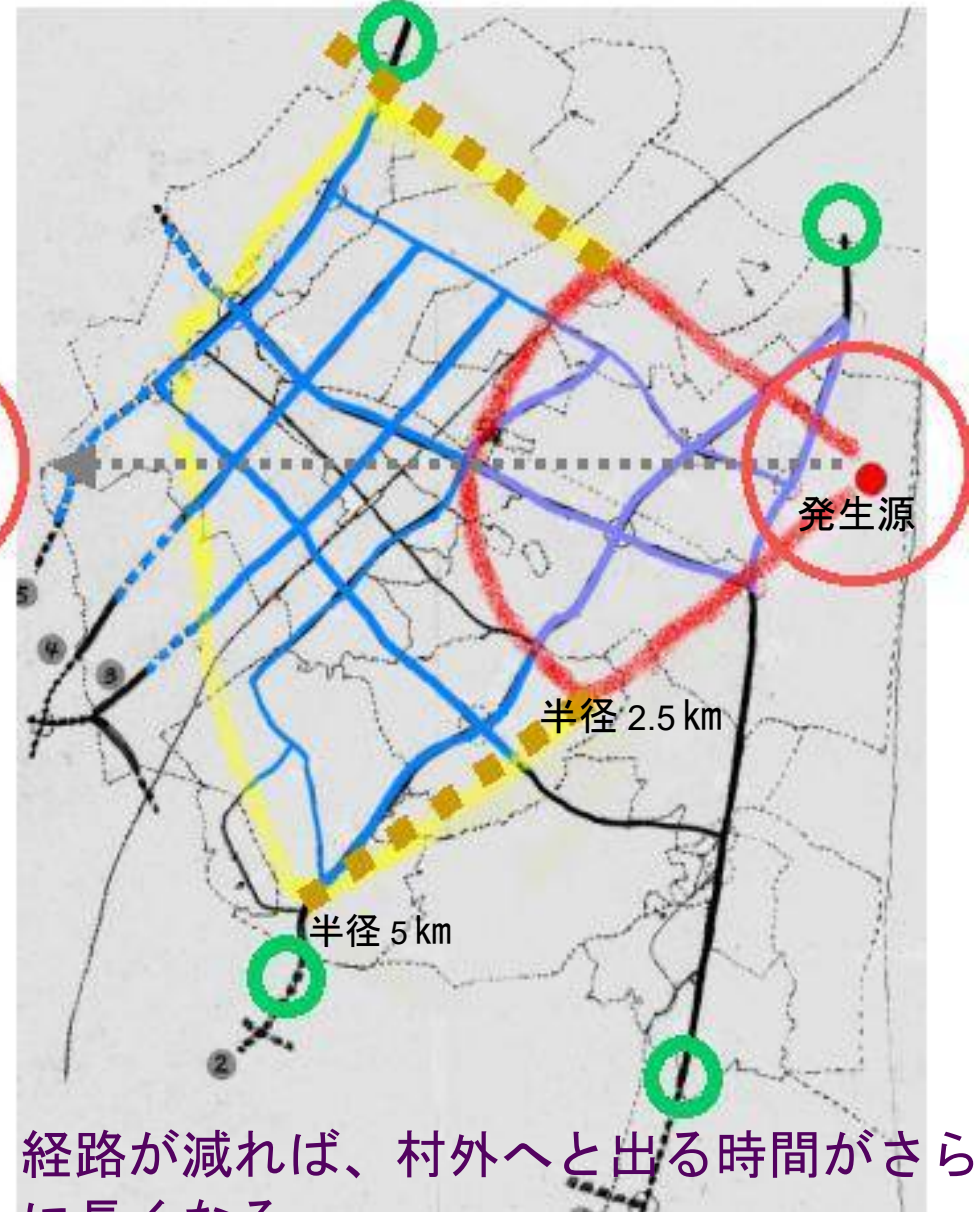
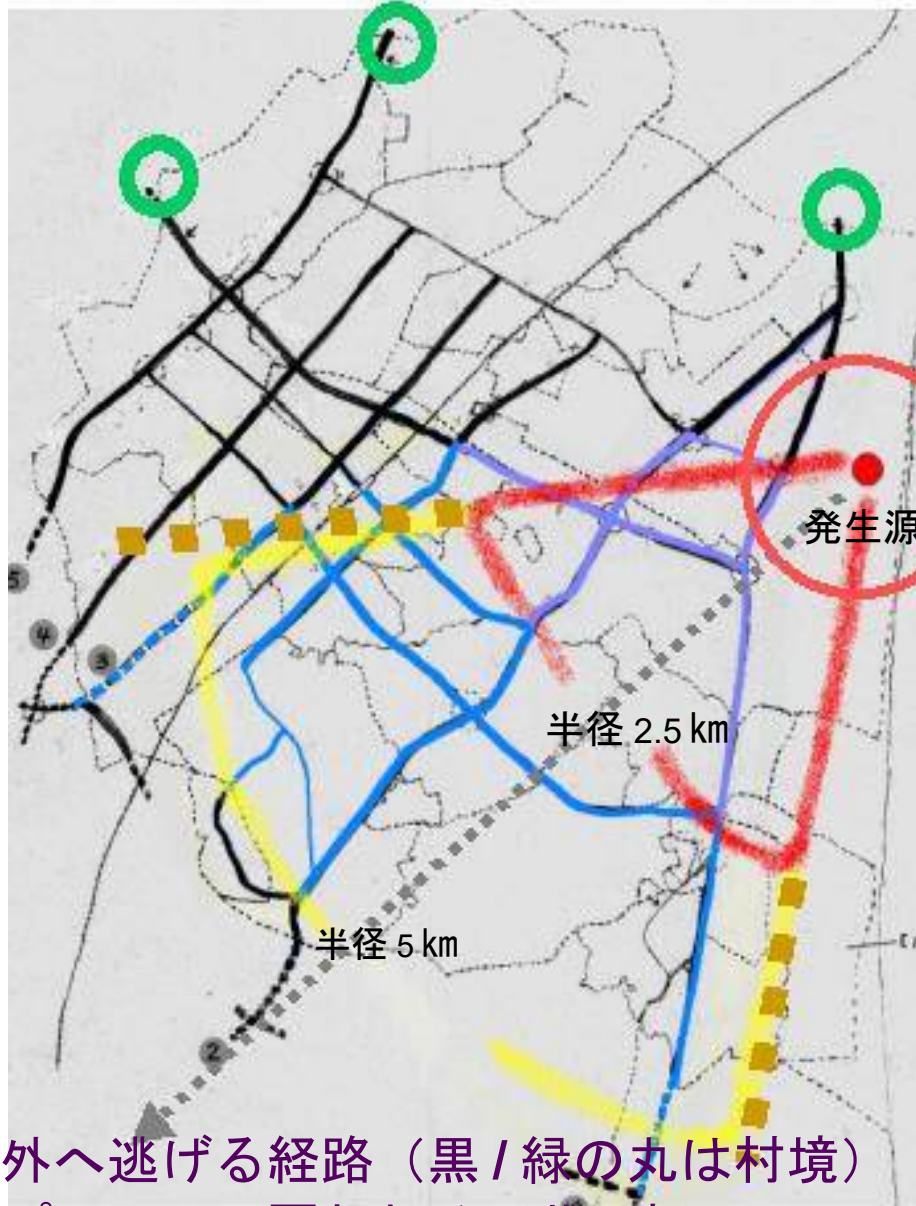
B2 避難経路②事故時—風向と避難経路予測—

事故時の風向き(2種類)

*面積36.91平方km、人口33,973人、世帯数12,176世帯(『東海村の概要』H11年)。昼間人口比率103.17%、夜間より昼間が若干多い。1世帯当り自家用車保有台数は1.31台(『都市データブック』H8年)

風向—北東

風向—東



村外へ逃げる経路（黒 / 緑の丸は村境）
がプルームで覆われる（紫 / 青）

経路が減れば、村外へと出る時間がさら
に長くなる

3. 生命は守れるか？

「**原子力災害における避難行動**を左右する要因としては、事故の規模と物質の放出量、気象条件ごとに様々に拡散してゆく放射線物質の動き、避難勧告の迅速さ、退避・避難の手順に関する意思決定の的確さなど、**複数の要因が絡み合う。**

〔**原子力災害の複雑性(物的要因・人的要因)**〕

このため、行政といえども**判断ミスは大いに考えられる。**

〔**避難計画の実効性の低さ**〕

また、健康被害を最小限にとどめたい住民サイドの願いとはうらはらに、ある一定の基準値以下は**被害を容認させるような避難指示**が行われる。こうした考え方のもとでは**新たな低線量被曝者**を生み出してしまう可能性があり、それは人災ともいえる。

〔**低線量被ばくは容認されること**〕

原子力災害において自分の生命を自分で守ってゆくために何が出来るのか、住民が自らその方法を模索し、獲得してゆく必要があるのではないか。」

〔**市民の望む「防災」とかけ離れた避難計画を「どう克服するか」問われる**〕

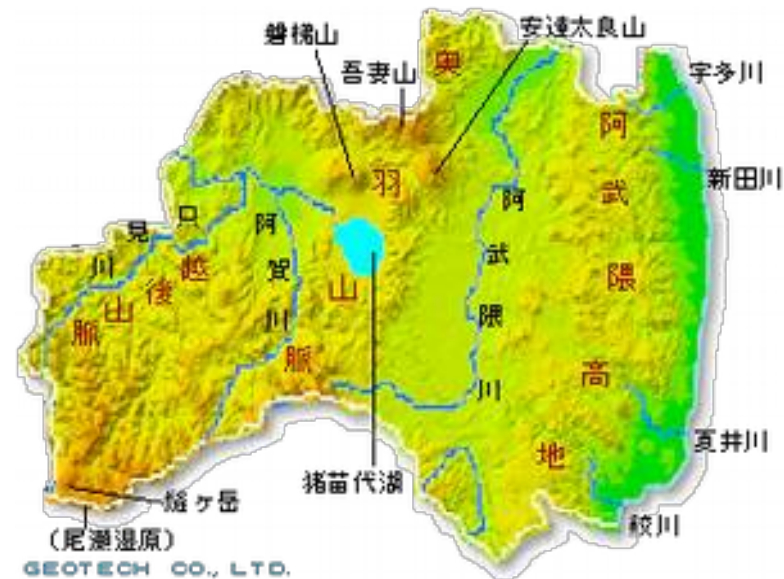
Ⅱ 2011年(東日本大震災)からこれまで で一見えてきた問題点一

伝承したいー伝承されていない声:避難者の声「あの日」の事

● 神謡 仕立てのお話し★

～山の神があの日見たことを歌った謡

「ふわりふわり」「ベントー ベントー」～●



避難者の声を聴いてこそ判る事がある

伝承したいー伝承されていない声：避難者の声 「あの日」の事

● スライド・背景：双葉町の伝承館（前庭）／津波（同伝承館の展示から）／阿武隈山地の河・林（Free Photo）


● 神謡 仕立てのお話し★

★ 『アイヌ神謡集』 から学んだこと「神謡じたて…」

： 神の視点から語られる「語り」（カケへ，韻を踏む… etc.）

山岳信仰を持つ私たちにとっても、山の神という視点は、荒唐無稽ではない

： 口承伝承



阿武隈山地に住む山の神がその日と
その直後のことを歌った謡
「ふわり ふわり」「ベントー ベントー」

**God of Mt. Abukuma sang a song of
affairs whose one has seen about
the day 3.11, 2011 and soon after,
"Fuwari Fuwari, Bentoo Bentoo"**

阿武隈山に住む山の神（かみ）は、2011年3月11日とその直後に見たことのある出来事の歌を歌いました。





2011年3月11日 午後5時00分

双葉町は、原発の町。訓練もしたことはあった。けれども、その日何が起きているのが、何も知らされなかった。雪のような何かが、発電所から降ってきたあの日。

「ふわりふわり」

「ベントー ベントー」



町には津波もきて、わたしたちは、福祉施設から沢山のひとを逃がしたかったひとを見と。その人たちは、外に居たよ。防災無線が何かいった。

「ふわりふわり」

「ベントー ベントー」



校場にも、何をどうしたらいいのかわかる人は少なかった。となりの町のオフサイトセンターは目になった。あのとき、ましてや、どうやったら、何の情報もない人が目に見えない放射能から逃げられたのだろうか。

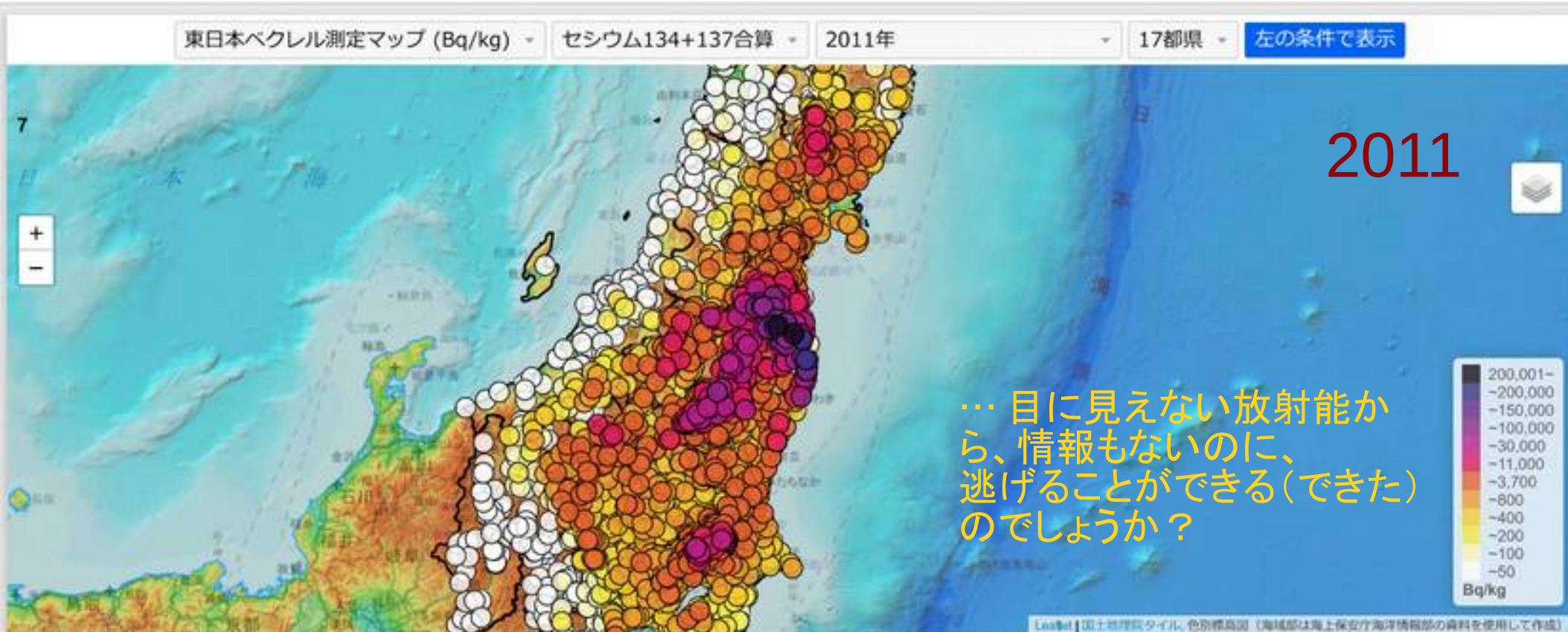
と、阿武隈山地にすむ山の神は、あの何日かの出来事を思い起こして悲しそうに叫びました。

「ふわりふわり」
「ベントー ベントー」

わたしたちはいま、そのことを忘れたくないから、同じことを繰り返したくないから、もう一度空の上から見てみることにしよう、と勇気ある人間の若者も言いました。

● 福島第一原発事故後の放射能汚染

(The radioactive contamination Radioactive after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident)

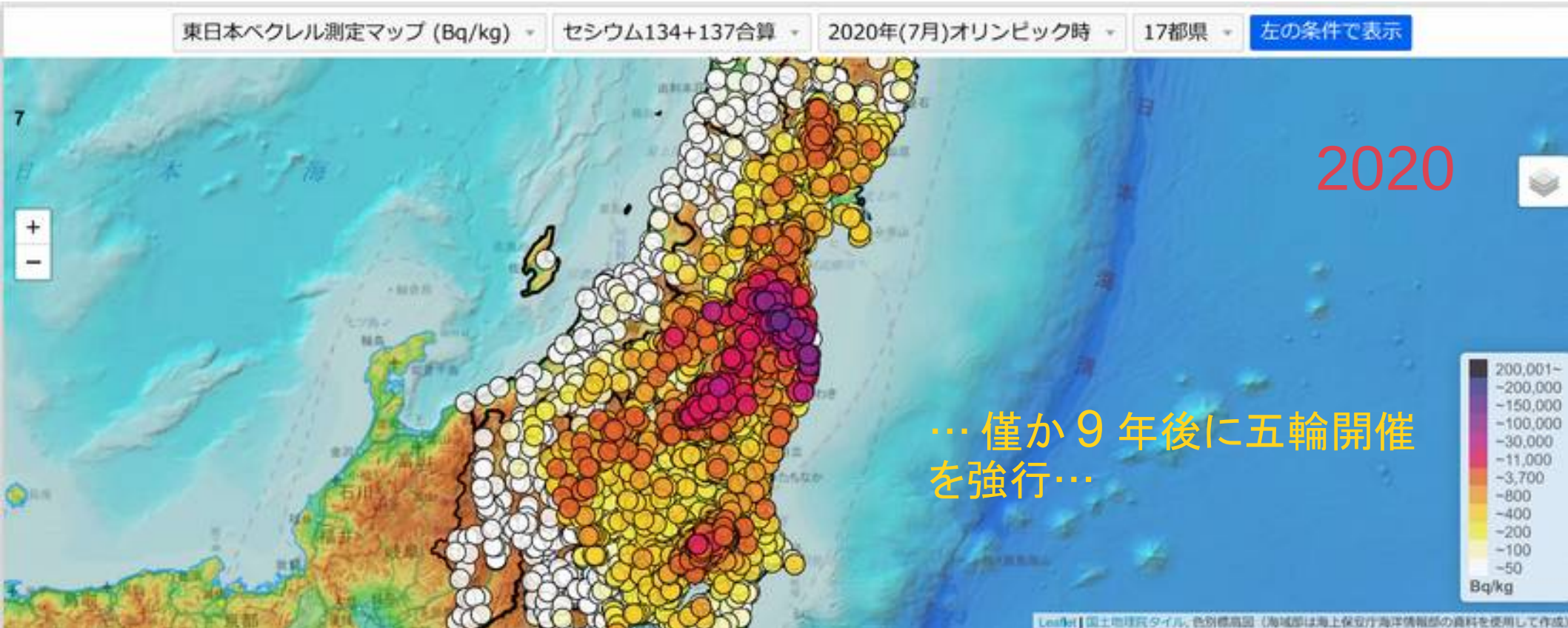


東日本土壌ベクレル測定プロジェクト <https://minnanods.net/soil/aboutsoil.html>

市民放射能データ測定 [みんなのデータサイト](https://minnanods.net/) より

<https://minnanods.net/>

↓ 以下、東京オリンピックの時期（事故から9年目）



福島第一原発事故 / 市民グループ「五輪開催時の土壤汚染地図」無償提供
(2020/03/11) Our Planet TV も参照。 <https://www.ourplanet-tv.org/39914/>

市民放射能データ測定 [みんなのデータサイト](https://minnanods.net/) より

<https://minnanods.net/>

「100 Bq/kg」(図中、黄色部分)

◇ 放射能汚染がもたらした、何重もの苦しみ -

: 後述する被災者(広島地裁での陳述を準備した方)は「IAEA(国際原子力機関)によれば、1kgあたりセシウム137を100Bq以上含む物質を放射性廃棄物としている」こと、「東日本の広い地域が、放射性廃棄物と同等の放射能汚染に覆われている」と指摘しています。

*

「広島地方裁判所 御中

意見陳述要旨

伊方原発運転差止等請求事件本案訴訟

2022年12月14日第30回口頭弁論期日

第3陣原告 鴨下 美和 (東京都在住 福島原発事故被害者) 』
より。

「... (証言者は) 三重災害、つまり地震、津波、原発事故によって言い表せないほどの本当につらい思いをされた、すべての人を代表しておられます。」

(2019年に来日、東日本大震災被災者との集い・教皇フランシス(その認識とは...))

「続く 苦しみ」…

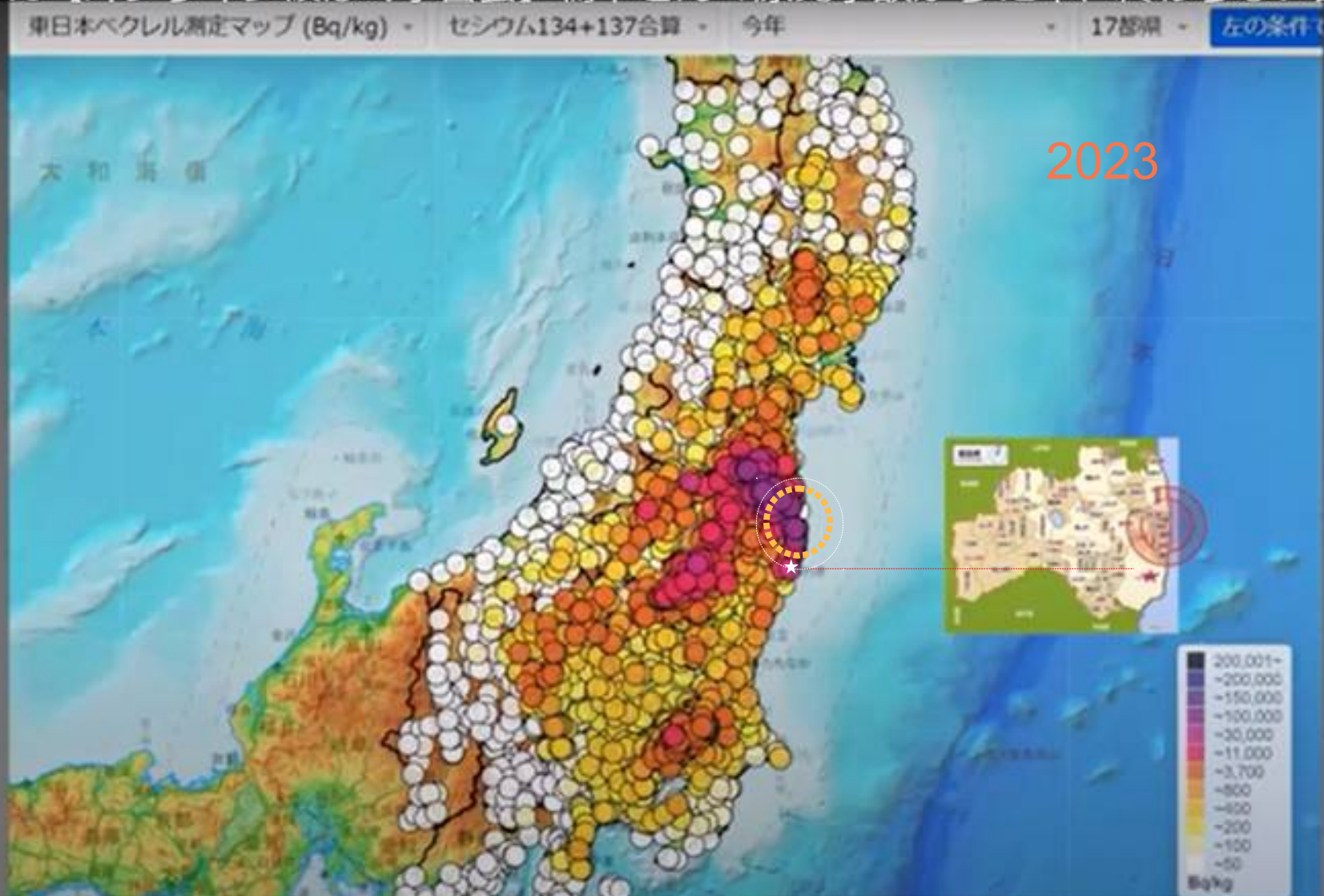
裁判 - 福島原発被害東京訴訟
裁判 - 避難住宅追い出し訴訟
… 「…それで奪われた人生を取り戻せるものでも無いのに、ただひとつ『辛い』と言葉をもらす自由さえも奪われるのです。」 鴨下美和さん*

「僕たちの苦しみは、とても伝えきれません。だから…どうかともに祈ってください。」 鴨下全生 (Matsuki) さん (当時 16 歳) の証言より：教皇フランシスコと東日本大震災被災者との集い (東京 2019 年) にて
<https://www.cbcj.catholic.jp/2019/11/25/19841/> (カトリック中央協議会 HP)



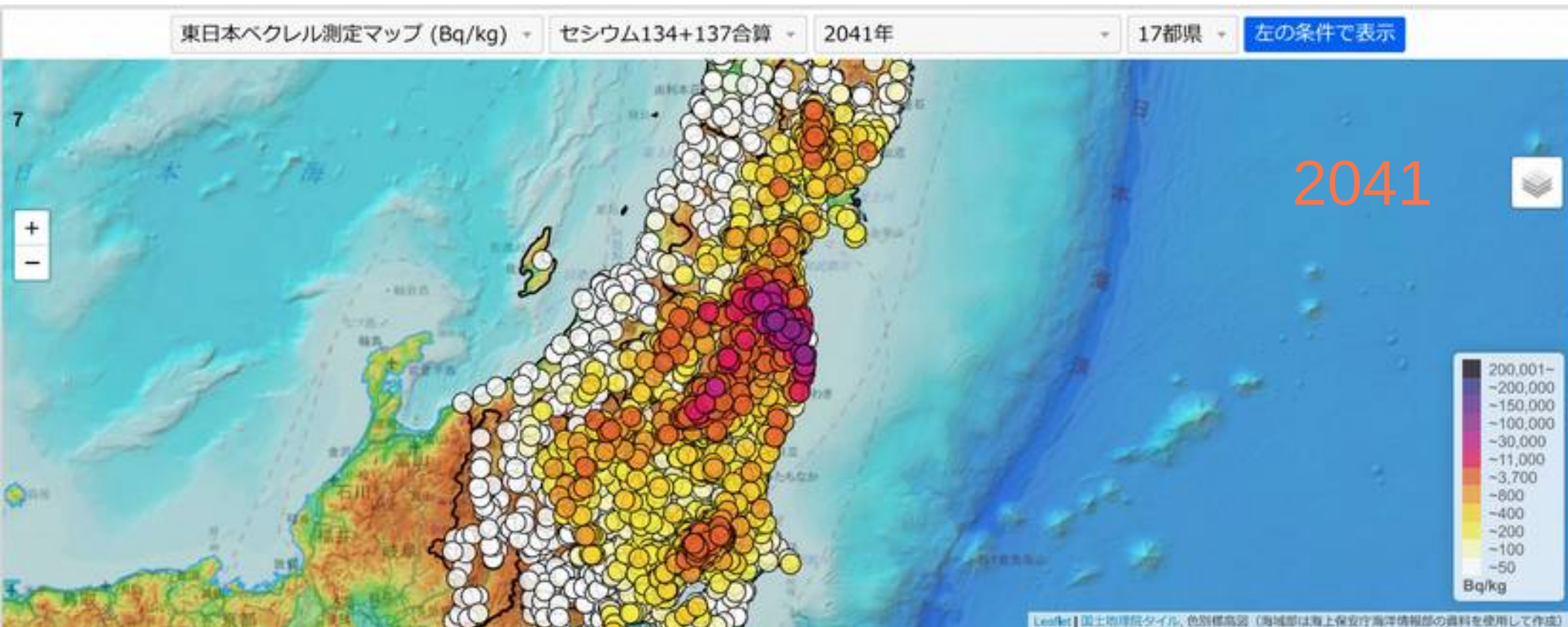
いわき市から避難した鴨下家の場合

20230313 【オンライン被ばく学習会】鴨下さん「原発事故から12年、終わらない苦難の日々...



「線引きする」政策—その意思決定がもたらす(した)帰結は？
(国内避難...社会的な抑圧...、生業喪失、住まいの喪失...裁判・政治的圧力)

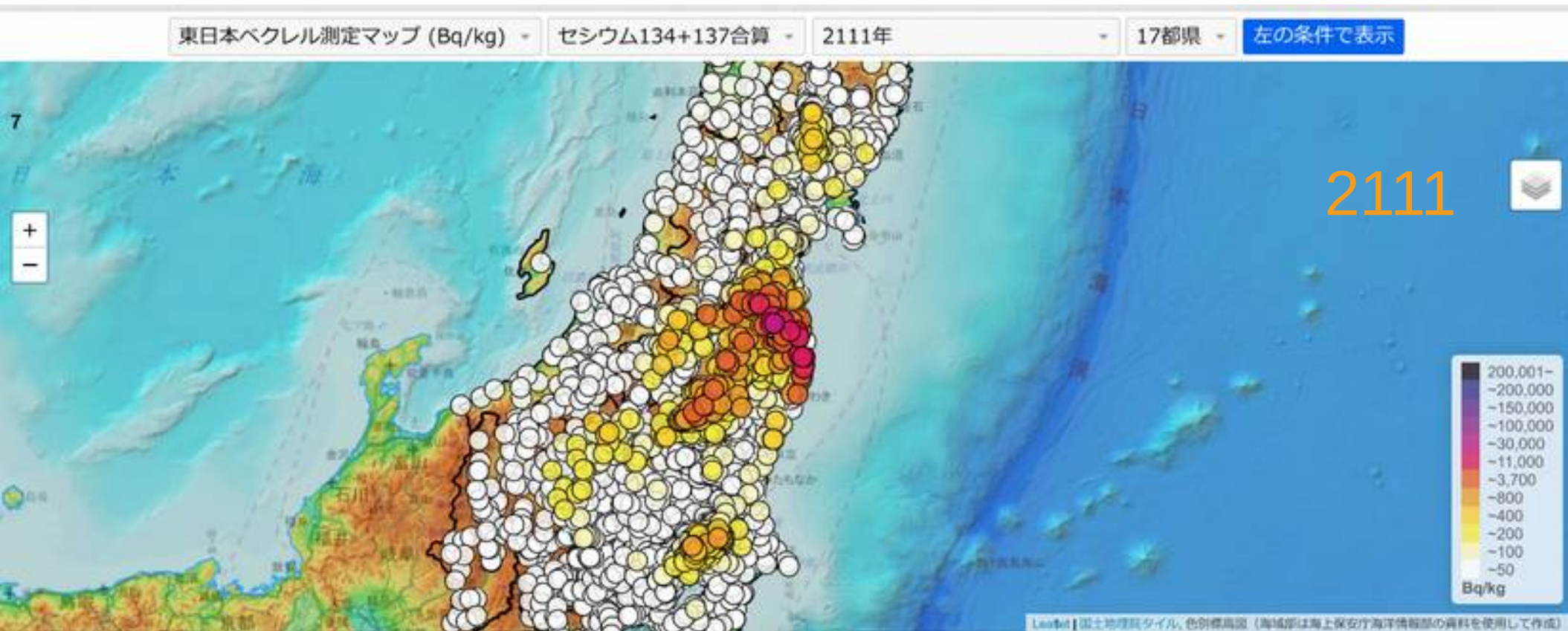
↓ 事故から 30 年後（予想）



市民放射能データ測定 みんなのデータサイト より

<https://minnanods.net/>

↓ 事故から 100 年後（予想）



市民放射能データ測定 みんなのデータサイト より

<https://minnanods.net/>

2011年からこれまで：見えてきた問題点

- 逃げられない避難 [前述][後述] ▼
- 知らされない…汚染の状態
- 矮小化される…被害
- 実施が望めない…平常時の予防原則（避難の必要性の最小化・限定的な区域指定・あまりに早い指定解除 etc. ）
- 困難な長期避難 予防措置をとる避難者に対して行われる…（有言の・無言の、多様な）政治的・社会的な圧力
- 「線引き」（政策 / その帰結）（意図した / 意図せざる）…二次的、三次的に…被害者をつくり出し、苦しみを与え、被害を拡張し続けている現状（がん罹患者、避難者・国内避難民、放射性汚染物質の拡散、放射能汚染水放出…）一原子力災害がもたらすもの一引換えにしているもの

[情報は知らされず、被害は矮小化され、被害者は無視される]

Ⅲ 今

(もう一度考える原子力災害と「避難」
いま、わたしが伝承したいこと)

1. 避難のための基礎知識

2. 避難行動シミュレーションの必要性

・ 新たな問題

3. 生命は守れるか？

1. 避難のための基礎知識

『福島第一原子力発電所事故を踏まえた 原子力災害時の安全な避難方法の検証～ 検証報告書 ～』報告集（2022）より

● … 困難性 への言及（全ての項目に見つけることが可能）

○ 検証対象とした原子力災害時の対応

- | | | |
|---------------------|----------------|--------------|
| 1 情報伝達 | 2 平常時モニタリング | 3 緊急時モニタリング |
| 4 施設敷地緊急事態要避難者避難 | 5 屋内退避 | |
| 6 スクリーニング・緊急被ばく医療活動 | 7 安定ヨウ素剤緊急配布 | |
| 8 P A Z内住民等の避難 | 9 U P Z内住民等の避難 | 10 道路状況確認・啓開 |

『原子力災害対策指針』原子力規制委員会（R4）

『拡散シミュレーションの試算結果（総点検版）』原子力規制庁（H24）

2001年
指摘した
ことが
みな解決
したのか
？

[安全に避難することを実現したい...] とはいえ 難しい

『私たちは避難できるのか（原子力災害編）
- 防災ガイドブック 原子力災害編を読む』より

- 立地自治体の市民団体[新潟県柏崎市]
- 市民の検証 <http://www.kisnet.or.jp/hanyu/index.html>

● 被ばくすることを前提にした避難計画を拒否

1. 避難のための基礎知識 (つづき)

• 例えば…

道路を移動して
避難することについてだけでも…
(全国共通の問題)

情報提供の用途は？ (共助で…?) 天候のことは???

半径 5 km圏?
30 km圏?

地震、積雪等により避難経路が失われる可能性

予め決められた避難先 だけでいいの?

啓発 (避難のシナリオ)

(一度に逃げられないから)
屋内退避でいい?
(市民の自助努力が基本)

[安全に避難すること] …は難しい

離脱時間のシミュレーション
だけでいいの?

避難計画

(国一都道府県一市町村)

地震、津波 (複合災害) は考えないの?

2. 避難行動シミュレーションの必要性

- 凡例
- 沸騰水型
 - 加圧水型
 - 再稼働中
 - 廃炉
 - △ 審査未申請

- [基本情報(例)]
- ・原子力発電所の立地(右図)
 - ・原子炉の型(左、凡例)
 - ・周辺状況 (30km 圏内人口予測)
 - ・自然環境 (各地、地図参照)
 - ・政治・社会的環境 (ニュース・例)

泊	□□□	(30km 圏内) 7 万人
東通	□△	(30km 圏内) 7 万人
女川	●○△	(30km 圏内) 20 万人
東海第二	○	(30km 圏内) 94 万人
柏崎刈羽	○○△△△△△	(30km 圏内) 44 万人
浜岡	●●○○△	(30km 圏内) 83 万人
志賀	○△	(30km 圏内) 15 万人
敦賀	●□	(30km 圏内) 32 万人
美浜	■●□	(30km 圏内) 28 万人
大飯	■●□□	(30km 圏内) 16 万人
高浜	□□□□	(30km 圏内) 17 万人
島根	●○○	(30km 圏内) 46 万人
伊方	■●□	(30km 圏内) 11 万人
玄海	■●□□	(30km 圏内) 26 万人
川内	□□	(30km 圏内) 21 万人



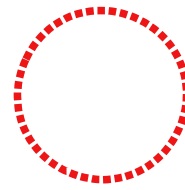
原子力発電所の立地

(出典) 山陰中央新報デジタル 2021 年 9 月 17 日のデータを参照、加筆、改変した。

茨城県那珂郡東海村

東海第二

半径 30Km 圏
/ 圏内人口予測



5Km 圏
(先に逃げる)

決められた避難先
へ逃げる

東海発電所 1966 年
営業運転開始 (商業
原子力発電日本初)

宇都宮市

94万人

太平洋

2021年3月18日
東海第二原発 再稼働
認めない判決 水戸地裁



「東海第二原発差し止め訴訟控訴審 裁判
体を変更「公正・中立な裁判を求める」緒戦」
はんげんぱつ新聞 第539号 2023年2月



2001年東海村シミュレーション事
例と同等範囲 (目安)

半径 30Km 圏 / 圏内人口予測

福井県敦賀市明神町

敦賀

福井県三方郡美浜町

美浜

再稼働中



日本海

1970年11月 美浜
発電所1号機営業
運転開始(電力会社
初 / 加圧水型)

1970年3月 敦賀発
電所1号機営業運
転開始(軽水炉日本
初 / 沸騰水型)

17万人

16万人

32万人

28万人

(水源↓琵琶湖)

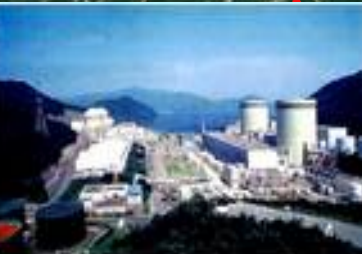
福井県大飯郡おおい町

大飯

再稼働中



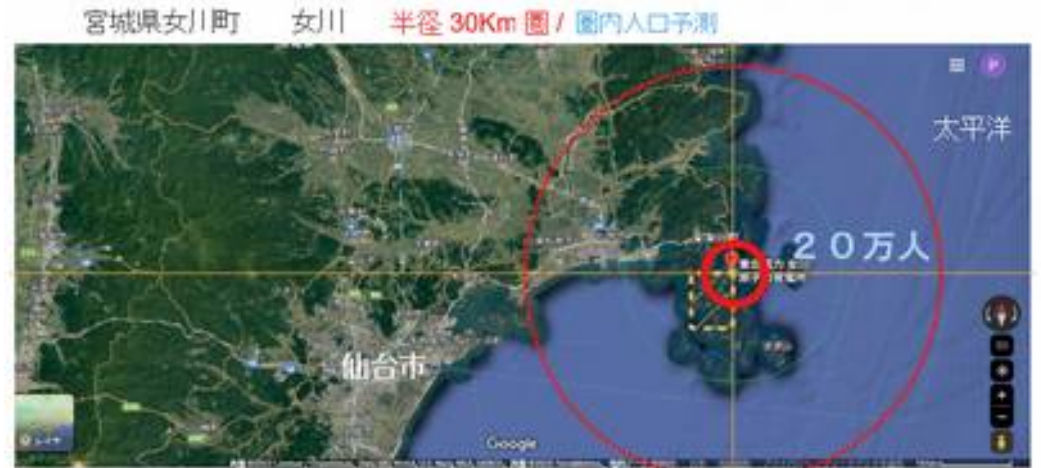
2001年東海村シミュレーション事
例と同等範囲(目安)



『'96原子力発電』通商産業省 資源エネルギー庁 原子力広報推進室 (1996) より

福井県大飯郡高浜町 高浜 再稼働中





2001年東海村シミュレーション事例と同等範囲 (目安)



核燃料サイクル政策の破綻が明らかになった理由 「26回目」核燃料再処理工場の完成延期を発表、日本政府

東京新聞

日本経済新聞 (2004年11月27日) 政府は建設中の核燃料再処理工場について、延期として10年度開工を延期すると発表し、延期は26回目、延期は10年度に限り核燃料再処理工場の建設は中止する方針を示した。27日開工予定の再処理工場は、2004年11月27日、政府は建設中の核燃料再処理工場について、延期として10年度開工を延期すると発表し、延期は26回目、延期は10年度に限り核燃料再処理工場の建設は中止する方針を示した。

2001年東海村シミュレーション事例と同等範囲 (目安)

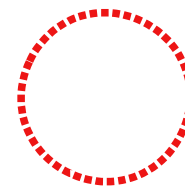


「96 原子力発電」 通風産業省

愛媛県西宇和郡伊方町

伊方
再稼働中

半径 30Km 圏
/ 圏内人口予測



決められ
た避難先
へ逃げる



佐賀県
東松浦郡玄海町
玄海
再稼働中

伊方原発差し止め決定



26万人

・ 国道 197 号
(救援ルートを開ける (切り開く) こと)
(『伊方地域の緊急時対応 概要
版』内閣府 (R2))



2001 年東海村シミュレーション事
例と同等範囲 (目安)

石川県羽咋郡志賀町

志賀 半径 30Km 圏 / 圏内人口予測



5Km 圏



新潟県柏崎市 柏崎刈羽

半径 30Km 圏 / 圏内人口予測



島根県鹿島町 島根

半径 30Km 圏 / 圏内人口予測

日本海

鹿児島県薩摩川内市

川内 再稼働中

半径 30Km 圏 / 圏内人口予測

「川内1, 2号機の20年延長に県民投票を提起する」

はんげんぱつ新聞 第541号 2023年4月

21万人

東シナ海

Biz 九州・山口経済 原発耐震対応加速を 九電川内と玄海、規制委要求/福岡 毎日新聞 2023/3/2 地方版

46万人

松江市

米子市

出雲市

2. 避難行動シミュレーションの必要性：まとめ

・日本は世界有数の地震国でありながら、原発が多く海沿いに立地する。日本では少なくとも467万人がUPZ（原発から30 km圏）に住んでいるという試算（2021年）がある。UPZ自体（影響を示す範囲として）の根拠に乏しいことも事実。

▼事故の発生場所と規模・種類、気象条件…等々…で被害の規模は左右されるがシミュレーションの目途は立っていない（SPEEDI 廃止後）

・人びとにとっての被ばくの容認なしに、安全な避難計画をたてることも、安全に逃げることも極めて難しい。（避難・一時移転）

▼（前述・検討委『…検証報告書』報告集（2022））

・福島での経験から見えてきたことは、事故が起こっても、必要なことは、知らされない（だろう）し、政府も知ることが出来るかどうか分からない（FIの現状把握）、こと。

3. 生命は守れるか？

〔原子力災害の複雑性(物的要因・人的要因)〕

2001年

〔避難計画の実効性の低さ〕

〔低線量被ばくは容認させられること〕

〔市民の望む「防災」とかけ離れた避難計画を「どう克服するか」問われる〕

2011-2023年

1. 情報は知らされず、被害は矮小化され、被害者は無視される
2. 避難計画の問題・避難計画通りに逃げられる見込みの低さ・判断ミス(情報網の機能不全、複合災害…等*)
3. 被ばくを前提とする原子力防災の方針
▼長期避難の必要性は避難計画から抜け落ちる
そして
4. 原発の再稼働

原子力災害に対して、政府が考えるように、「避難計画で対応」し、生命を守れる…そう考えるのは「誤り」です

* 詳細は、添付資料3:『原子力防災と「避難」の問題点—いま、わたしが伝承したいこと』もご参照下さい。

新たな問題 「政府機関の認識」は…？

- 「原子力に**100%の安全はない**」原子力規制委の山中伸介委員長が職員に訓示…3・11前に
東日本大震災12年（読売新聞）（2023年3月）
- 原子力規制委員会の議論
「**根拠に乏しい正当化**によって、**老朽原発の運転の延長**が認められようとしている」（委員の反論）（2023年3月）
- 原子力規制委員会で任命が決定（2023年・令和5年4月5日）した「**緊急事態応急対策委員**」の中に、（鈴木元氏、明石眞言氏に加えて）「**山下俊一**」氏の名前が…
（あの、「ニコニコしていたら放射能の影響は来ない」といった、当時のアドバイザーですね。緊張を解くためだった…と弁明したらしいですが、緊張をしている人に対して「ウソ」はいけませんね。）

GX（グリーントランスフォーメーション）…といいながら、原発再稼働。原子力基本法の改悪。その背景にある人事…。

－ **引き換え**にしようとしているものは…**たくさんあります**－

（添付資料1, 2:『福島第一原発事故12年 いま、わたしが伝承したいこと チェック・シート』もご参照下さい。）

今、もう一度考える 原子力災害と「避難」

放射能汚染は、影響する相手を選ばず、また環境の汚染は長期にわたります。安全に避難できる原子力災害避難計画を作ることはできません。

原子力災害に対して「避難計画」では生命を守れません。

汚染と核被害は、長期間にわたって続きます。

原子力災害は「原子力発電をやめる」ことによってしか解決できません。

そして安全には逃げられない避難計画をもって、「原発の安全な運用が可能」とはいえないのです。



だから、再稼働のたび、生命を守るために思い起こしてください。

このままでは、

大きな事故の度に、新たに被ばく者を生み出してしまふ

その可能性に一人一人がどう対処していけばいいのでしょうか？**ということ**を。

あの日何が起こり、そしてずっと続いていることが、何なのかを。

ご清聴ありがとうございました

福島第一原発事故 12年

チェック・シート 2023

いま、わたしが伝承したいこと

✓ 実効性のある避難方法が確立したとは到底言い難い

(例: 事故時のプルームの動きをシミュレーションする方法も無い(検証委員会の報告書(2022)を参照)

✓ 福島第一原発事故の被災者が失ったものは計り知れない。(だが)政府はそのことを認めていない。

- ☑ 政府は様々な「切り捨て」を通じて、**事実の「忘却」**を加速*させている。(関連裁判判決)

だが、

- ☑ **長期避難**は(放射能汚染から逃れる不可欠の方法であると同時に)人びとに耐えがたい苦痛を与える。

✓ 福島第一原発事故による放射能汚染は広範囲に渡る。(危険な状態は今なお続く)

- ☑ 政府に**放射能汚染を全国に拡げないという意識はなくむしろ「事実」の忘却を推進***している(例: 除染可燃物焼却(減容化施設; 8,000 ~ 10,000Bq/kg)、放射能汚染土の全国への拡散(8,000Bq/kg以下をよしとして公園等における「実証実験」を計画)、放射能汚染水の海洋放出)

- ☑ **汚染から身を守る必要性は過少評価され、市民の理解の障がいとなる(屋内退避に関連)**

- ☑ **福島第一原発現場の問題。いま倒壊の恐れが指摘される。**

- ☑ **現場の汚染水を何故止めないのか(原因: 遮水壁をつくらなかった)。**

* 忘却の加速* 推進(含意)

嘘をつくまたは隠す、被害を無視する: **核の文化** / 国際的な科学者ネットワーク

[社会的・政治的に…隠される] グローバル被ばく者のことば(故人・マーシャル諸島核実験被害者・元外相)『核兵器禁止条約第6・7条に関する日本の市民社会からの提言—第1回締約国会議に向けて—』(2022年5月) p.9より。

/ 2023.4.20 「原発大回帰に抗して」一講演 コリン・コバヤシ氏、**崎山比早子氏**(You Tube)

福島第一原発事故 12年

チェック・シート 2023
(つづき)

いま、わたしが伝承したいこと

✓ 政府は今後の原子力災害について「事故は起こる」と考えているようだ。

✓ それにもかかわらず老朽原発の運転延長を推進している。

✓ さらに、活断層への存在や地震対策(玄海原発・川内原発)、あるいはテロ対策の不備(柏崎刈羽原発)も指摘される。こうした中で、

✓ 再稼働した原発は山陰、九州、四国、を中心にすでに10基を超えた。(関連する裁判も参照のこと)

(広域避難計画の不備を指摘した裁判判決も参照:東海第二原発)

✓ 地震や豪雪など、不測の事態に見まわれる可能性も予想されている。(柏崎刈羽原発)

✓ 事故が起これば「被ばくをどこまで容認するか」が焦点。つまり、被ばく線量自体がマネジメントの対象になり、被ばくの過小評価の方向へ。

(放射性物質が環境中に放出される事故が起これば、被ばく量を減らす以外できることはないが難しい(例:屋内退避の前提:市民自身の自助努力が基本))。

(「…報告書」(2022)を参照)。

原子力災害と「避難」の問題点

いま、わたしが伝承したいこと

〔**原子力災害**の複雑性(物的要因・人的要因)一天候(予測情報の提供なし) / 情報網の機能(不確実) / 予想外の事(放射性物質拡散のしかた) / 複合災害〕

〔**避難計画**の実効性の低さ—**判断ミス** / 避難指示の失敗(短期 / 避難場所)〕

〔**低線量被ばく**は容認させられること—被ばく線量限度引上げ / 避難区域指定の失敗(中長期) / 余りに早い避難区域指定解除〕

〔市民の望む「防災」とかけ離れた避難計画を「どう克服するか」問われる—自衛手段を講じる避難者〕

◆◆◆◆◆**放射能汚染(広範囲 / 長期間)**◆◆◆◆◆ 新たな問題

放射性物質に関する情報 / 甚だしい一貫性の欠如(事故前との比較)

〔**汚染の過少評価**—汚染物質の定義(解釈の変更) / 基準の見直しと一方的な緩和 / 放射能汚染物質のばらまき / 放射能汚染水対策における不作為 / 放射能汚染水の放出〕 **健康影響の過少評価** ◆◆◆ 自然環境 への配慮のなさ

原子力は、自然環境を保全するという責務に応えない(真のG(グリーン)Xではない)

◆◆◆短期・中期・長期的避難と**避難がもたらす苦しみ**◆◆◆

故郷の喪失・生業の喪失・家族の離散…等

〔**原発事故被害者の苦しみ**—無視・過小評価 / 社会的な圧力 / 政治的な圧力〕 41